



## 季節を感じる心を・・・



春告草とも呼ばれる梅が開花の時期を迎えています。

今回は、日本ならではの自然と季節感を大切に、月ごとの呼び名『和風月名』をご紹介します。現代のカレンダーでも目にすることはありますが、旧暦では、月ごとに和風の呼び名を使っていました。

2月は「如月」。寒い季節に服（衣）を重ねる「衣更着」を由来とする説や、気候が陽気になる季節の「気更来」など、諸説あります。続く3月は「弥生」です。木や草が生い茂る月という意味の「木草弥や生ひ月」が縮まり、「弥や生ひ」から「弥生」になったと言われています。

和風月名には、言葉のもつ響きの美しさとともに、日本の四季に寄り添った表現だからこそ、趣や和みを感じます。旧暦の季節や行事に合わせた呼び名のため、現在の季節感とは1か月程のズレが生じますが、それぞれの由来や意味を知ると本来の風情をより実感できそうですね。

先日伺ったクリニックの受付で、さりげなく飾られた季節を感じさせるディスプレイに目が留まり、ほっこりした気持ちになりました。季節をちょっと先取りした小物を飾る演出は、お越しになる方々に和んでいただける効果がありそうです。

引っ越しをすることになったみどりちゃん。あなたは引っ越しのマナーを知っていますか？  

### あいさつのタイミングは？

引っ越し先では、なるべく当日、遅くとも1週間以内にあいさつに伺いましょう。一軒家はお向いの3軒と両隣、マンションは両隣と上下の住人を目安に。相手の負担にならないよう、夕方ごろまでに済ませるとよいでしょう。また、旧居でお世話になった方やご近所の方には引っ越しの前日までにあいさつを。時間があまりない場合には、あいさつ状を送りましょう。ただし、女性の一人暮らしの場合、防犯上の面からあいさつを控えることもあります。

### 誰と伺うの？

家族全員で伺うのが理想。家族形態を知らせることができ、コミュニケーションのきっかけにもなります。事情により家族が全員揃わずあいさつした場合には、改めて伺う必要はありません。

### 何を伝えたいの？

「どこ」に引っ越してきた「誰」かを、しっかりと伝えます。ペットがいる、仕事の時間が不規則など、まわりに迷惑をかけるかもしれない場合は、あらかじめ伝えておくとうれしいですね。

### ご近所への手土産は？

旧居・新居どちらも500～1000円程度の品物を用意します。タオル、洗剤などの日用品が一般的です。名前を覚えてもらうように、「のし」の水引部分より上には「ご挨拶」、下には自分の「名字」を書きましょう。



コミュニケーションの第一歩はあいさつから。今までお世話になった方、これからお世話になる方に気持ちの良いあいさつをして、より良い人間関係を築いていきたいですね。

